

稲・麦・大豆かわら版

水稻編

号外 2020. 7. 9 発行

栃木県塩谷南那須農業振興事務所経営普及部

☎ 0287-43-2318

<http://www.pref.tochigi.lg.jp/g55>



葉色が淡い圃場は、中干しをせず間断かん水を継続しましょう！



斑点米カメムシへの対策を徹底しましょう！

1 生育概況（5月第上旬移植・コシヒカリ）

- ◇ 宇都宮市の生育診断ほでは、草丈は平年並、茎数はやや多く、葉色はやや淡い状態でした。
- ◇ 管内における生育診断ほの調査結果（塩谷町、那須烏山市）は、草丈は前年並～やや長いですが、茎数は少なく、葉色はやや濃い状態でした。
- ◇ 生育診断値（茎数×葉色値）は、塩谷町と宇都宮市では基準値内でしたが、那須烏山市では基準値を下回っており地域によるバラツキが大きい状況でした（表1）。
- ◇ 幼穂分化の程度等から、今後気温が平年並に推移した場合、5月第1半旬に移植したコシヒカリの出穂期はほぼ平年並の7月30日頃と予測されます。

表1 令和2年7月6日生育調査結果

調査項目	塩谷町	那須烏山市	宇都宮市 (農業試験場)	生育診断値※ (出穂前30日)
①草丈(cm)	71	73	74	-
②茎数(本/坪)	466	413	561	450~470
③葉齢	9.9	11.1	11.3	-
④葉色	4.9	4.0	3.3	3.9~4.2
⑤茎数×葉色値	2,283	1,653	1,859	1,800~2,050

※県北部、早植栽培、22株/m²植えの場合

2 技術対策

(1) 水管理

- ◇ 葉色が淡い場合は出穂まで間断かん水を継続し、根の活力を向上させましょう。
- ◇ 気象庁の7月4日以降の1ヶ月予報によると、平年と比べて気温が高い・平年並の確率はそれぞれ70%・20%で、高温に推移すると考えられます。出穂期以降の異常高温対策として夕方から夜間のかん水により地温を低下させ、根の活力維持に努めましょう。
- ◇ 落水時期は出穂後30日以降とし、その後も高温・多照が続く場合は、ほ場条件を考慮し収穫7~10日前まで走水を実施しましょう。

(2) 追肥

- ◇ 生育の進みと生育診断値から判断して、現時点における分施（基肥＋追肥体系）の追肥時期（出穂前 15 日）は 7 月 15 日頃と予測されます。間断かん水が続けて葉色の極端な低下を防ぎ、時期になったら窒素成分 3kg/10a（NK-202 号等）をきっちり追肥しましょう。

(3) 斑点米カメムシ対策

栃木県農業環境指導センターの調査結果（6 月末実施）では、斑点米カメムシ類全体の発生状況は「やや多」で、特にカスミカメ類の発生が多くなっています。気温の上昇と共に斑点米カメムシ類の水田への飛来や、その後の発生数が急増する可能性があるため、以下の防除対策を実施しましょう。

< 雑草管理 >

斑点米カメムシ類はイネ科雑草等の穂に引き寄せられて飛来するので、本田内の除草及び水田周辺の草刈り（水稻の出穂 2～3 週間前と出穂期頃の 2 回）を行って、カメムシ類が発生しにくい環境にしましょう（図 1）。

< 農薬散布 >

出穂期～穂揃期に斑点米カメムシ類を水田で確認した場合は、液剤なら乳熟初期（出穂期 7～10 日後）まで、粒剤なら出穂期～出穂期 7 日後までに防除しましょう。

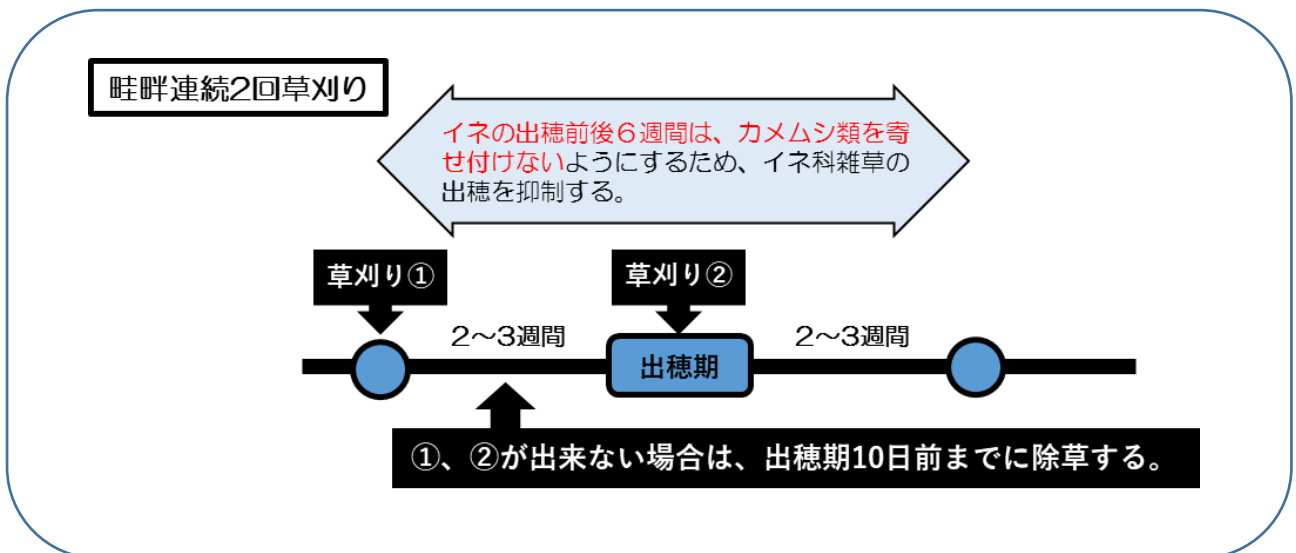


図 1 斑点米カメムシ類防除のための除草管理